



同窓報

千南原

第9号

昭和58年9月20日発行

編集・発行 藤枝市天王町1丁目7-1 静岡県立藤枝東高等学校 同窓会事務局

# 新会長に伊村隆恵氏

## 副会長新たに曾根・岩田・井田氏が

### 松永前会長は相談役に

昭和五十四年七月以降二期四年間にわたって藤枝東高等学校同窓会会長として多大な貢献をされた松永氏がこの度辞任されたため、昭和五十八年度同窓会総会において第五代会長として伊村隆恵氏が選出された。また創立六十周年の長い歴史と一万四千人にも達した多くの卒業生を有する大規模な同窓会の活動をより円滑に運営するために、新たに副会長三名、曾根雄一氏、岩田規氏、井田久義氏が選出され、副会長七名という組織になった。

前会長松永氏は母校第三回の卒業生で、同窓会設立以来役員として活躍され、昭和五十三年七月第三代会長榎田俊作氏が急逝された後、会長代行として一年間、ま

た以降四年間会長として、故榎田会長が着手された同窓会基金二千万円募金事業を継承遂行され本年五月に完成させた。さらに昨年は学校創立六十周年記念事業に当たられるなど同窓会活動に多くの業績を残された。今後は同窓会相談役に引き続き同窓会活動に助言・協力をしてくることにされた。

また、新しく会長に選ばれた伊村隆恵氏は本校第六回卒業生であり、松永前会長とともに同窓会設立以来役員として活躍、長年にわたって副会長として会長を補佐し同窓会活動に貢献して来られた。新会長は長年母校校門前に居住され、学校の長い変遷に実によく精通され、また曾根副会長は前校長、岩田副会長はサッカー部で、井田

副会長は野球部でそれぞれ活躍された方々であり今後の同窓会の発展が期待される。

#### 新同窓会役員 (敬称略)

会長	伊村 隆恵 (6回)
副会長	曾根 雄一 (12回)
	岩田 規 (15回)
	井田 久義 (28回)
相談役	松永 正雄 (12回)
会計監査	岩田 哲夫 (27回)



同窓会会長に就任して  
会長 伊村 隆恵

わが母校藤枝東も昨年十一月には満六十才の誕生を数え、栄ある開校記念の式典が盛大に挙行されました。六十一年の長い年月の経過は、志太中創設の精神が培われ、育成され、次から次へと幾多の偉業の足跡が歴史の頁を綴ってきた。その一例としてサッカーといえば藤枝東、藤枝といえはサッカーの町と、その名声を天下に轟かせました。のみならず各クラブもサッカーに劣らぬ足跡を綴り続け、今日の確たる基盤を築きあげてきた。歴史が継承され、歴史の伝統が保持され、歴史の輝きとして、また卒業生に誇りを持って、また進学率の向上においても特に成績をあげており、県下においても最上位の進学率の実績校であります。母校が歴史の積み重ねと共にい

よいよその輝きが発揮されて、誇り高い伝統が継承されておることには実に喜ばしい限りであります。

この歴史を築いてきた同窓会も初代故榎田会長、宮崎、故榎田、松永会長と四代に亘って引き継がれてきました。今回五代会長に非なる私が就任いたしましたことはこの上ない光栄と存じます。これはこの上ない光栄と存じます。これはこの上ない光栄と存じます。

田、松永会長二代に亘って、最も会の充実した時代であり、同窓会館、中庭の造園、在校生のクラブ活動振興のための二千万円基金づくりの大事業を達成、側面より卒業生の力を結集し、母校の発展を願うことになり、厚くお礼申し上げます。また折りは創立六十周年記念行事が行われ、母校のより一層の発展を



同窓会の益々の発展を  
前会長 松永 臻

同窓会一万四千名のみならずがた、益々壮健で活躍のことと存じあげます。

私こと、この度都合で長年務めさせていた同窓会会長を辞任することになりました。振返りますと同窓会設立当初から役員としてお手伝いをさせていただきました。そして昭和五十三年七月榎田俊作前会長の急逝以来、会長代行、そして会長として約五年間、会員のみなさまがたの絶大のご支援のもとに大過なく過ごさせていただき感謝の念でいっぱいでございます。とりわけ前会長が着手された二千万円基金募金事業を引き継ぎようやく完遂の運びとなりました。これは何よりの喜びであり、ここに厚くお礼申し上げます。また折りは創立六十周年記念行事が行われ、母校のより一層の発展を



本校に着任して  
校長 鎌田 勝

校長室に保存されている本校創設期の頃の資料(校友会誌)の中に、「初代校長の錦織先生(至誠一貫、新興の意気を発揚せん)との理想を掲げて着任され七星霜、学力の増進・訓育の徹底・体力の向上に、血のにじむような努力をされた」という記事があります。この初代の理想が、建学の精神となり、訓とあって、歴代の校長に継承され、教職員の生徒指導の実践目標となつて、六十一年の歴史を力強く生き続けていくことを感じます。

私は縁あって、今年三月勇退された曾根先生の後をうけて、十五代校長として着任しました。高潔高邁な教育実践された歴代

# 鎌田・新校長着任

## 曾根前校長は勇退

昭和五十七年度末の教職員の人事異動により第十四代曾根雄一校長が勇退され、新たに鎌田勝校長が第十五代校長として着任された。

勇退された曾根前校長は母校第十二回卒の同窓生であつたばかりか、母校に教員として約六年間、教頭として三年間、校長として二年間、計十一年間の長きにわたって教壇に立たれ先して後輩の指導に当たって来られた。また母校の生徒の時代には、校技であるサッカー部員として活躍されるなど母校とは切っても切れない深い縁を持つておられた。また一人母校のためだけでなく、静岡県高等学校校長協会理事として、静岡県高等学校界の発展と隆盛に多くの貢献をされて来られ、各方面から今回の勇退が惜しまれている。

なお曾根雄一前校長は、今回母校同窓会副会長に就任され、今後母校におよび同窓会活動の発展のために尽力されることになった。

新しく着任された鎌田勝校長は、校長歴十二年、豊富な経験と誠実な人柄、卓越した識見を持つておられる方であり、今後鎌田校長のもとで母校の教育目標である「至誠一貫、努力第一、精力集中」の教訓がよりよい方向で実践され、母校が益々充実、発展することが各方面から期待されている。

なお、鎌田新校長は藤原郡相良町出身で、かつてご尊父の仕事の関係で藤枝東高校門前に住んでおられ、創設された志太中



創立60周年記念式典 (於 母校体育館)

# 創立六十周年 記念行事挙行政

大正十三年、千南原に志太中学校として呱呱の声をあげた藤枝東高等学校は開校以来今年で六十年

の選遷を迎えた。文部省告示四十四号をもって母校が設立を認可された日を記念して、昨年十一月二十日(土)母校体育館において創立六十周年記念式典が厳粛かつ盛大に挙行政された。式典には静岡県教育委員会をはじめ、藤枝市、学校後援会、PTA等の役員、さらに卒業生代表など来賓約二百名、それに教職員、二・三年生の生徒が参列した。開式の辞に続いて、「君が代」を唱えて四分間の黙禱、「君が代」を唱えて第四代曾根校長から、学校創立の由来とあゆみ、本校教育のめざすもの、校技としてのサッカーの伝統などについての式辞があり、ついで来賓の方々から祝辞が述べられた。

なお卒業生は約一万四千名、現在一学年生徒数約三百七十名、県下有数の進学校として知られている。また校技であるサッカーでは戦前から全国的規模の大会に出場インターハイ、国民体育大会・全国選手権などに九回優勝の偉業をなし遂げている。



千南原を去るに当たって  
前校長 曾根 雄一

卒業生の皆様お元気に例年にない暑い夏を送られ、活躍の秋を迎えられることと拝察致しております。さて、私こと今年の三月まで母校藤枝東の校長として、後輩の育成に全力を尽くして不十分点が多く申し訳なく思っております。四月からは退職し、東高校長には県下最右翼の鎌田校長を迎え、安心して母校の教育を託することが出来ました。私の教職生活の最後を母校に奉職でき、母校を最後に退職するということは、本当に身に余る光栄でありました。

昨年十一月には創立六十周年記念式典を挙行政することができました。式典には、藤枝市、鹿島島で行われたインターハイに出場できたことなど昨年度は深く心に

刻まれることがたくさんあります。その都度同窓会の皆様には物心両面にわたって絶大なご協力、ご援助をいただき衷心より感謝致しております。一方進向かって教職員、父兄、生徒一致団結して校訓「至誠一貫、努力第一、精力集中」を身に体し実践した結果優秀な成果を挙げ、県下屈指の進学校としての実績を着実にあげ得ました。これらも先輩各位の陰に母校へのご協力ご指導の賜と感謝致しております。

さて、退職後は同窓会の仕事に励めよという会長さんの強い要請によりまして副会長の末席を要請することになりました。母校の発展の為に微力を捧げたいと存じますので、今後ともよろしくおねがいいたします。